

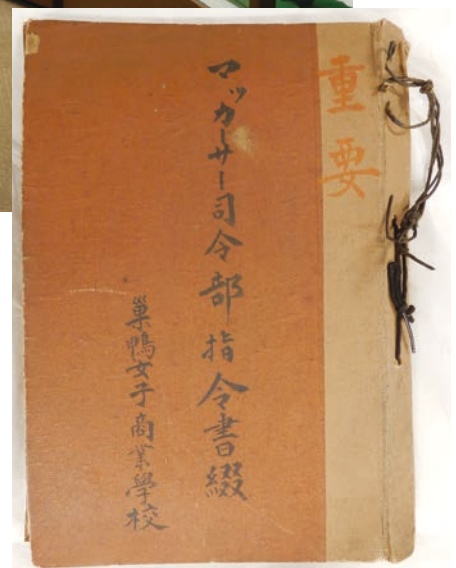
# 淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.24

2022.01.11

## 目次

[写真]淑徳巣鴨中学高等学校アーカイブ室・「マッカーサー司令部指令書綴」	1
学祖に迫る その2・佐々木 陽明師からみた学祖	2
～表紙の写真について～	2
アーカイブズの活動紹介	3
連続インタビュー 第2回〈菊地 政幸さん〉	4
アーカイブズ力(りょく)をつける その2〈清水 邦俊〉	6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願ひ／編集後記	8



## 学祖に迫る その2

### 佐々木 陽明師ようめいからみた学祖

佐々木 陽明師(1936  
～2019)は、長谷川  
良信先生の素顔をよ  
く知る方で、良信先生  
が建立された日伯寺  
住職をつとめ、浄土宗  
南米開教区の開教総



学祖 長谷川 良信

監をつとめました。一時帰国された時に、淑徳  
大学で1年生向けに行われた講演  
(1997.5.8.)の録音テープから紹介します。

1954年4月、良信先生(64歳)の二度め  
のブラジル渡航に佐々木師は同行しました。

良信先生はその地域の人間として物事を  
考えられる人で、そこが優れたところであつた  
と佐々木師は指摘します。「ブラジルの人たち  
のためのブラジル仏教でなければならない。  
日系人以外にも伝えていかなければならない」  
というように、日系社会には何が必要か、僧侶  
はそのために何をしなければならないのかと  
いう点をよく言っておられました。そこに住ん  
でいる人のことを思い、施設を利用する人の  
眼で見なさいということでもありました。

良信先生は大きな仕事をする一方、非常に  
細やかな心を持った人でした。部屋で涙を流  
しておられる先生を見つけ、理由をお聞きす  
ると、マハヤナ学園のこどもからの手紙に「こ  
の子はこんなに字が書けるようになったんだ」  
と答えられました。佐々木師は、先生の優しさ  
に参ってしまったといいます。

良信先生は学者として非常に優れた方で、  
少しの時間にも勉強され、時間を大切にした  
方だったことも、この講演で伝えています。

～表紙の写真について～

## アーカイブ室開室

淑徳巣鴨中学高等学校

「マッカーサー司令部指令書綴」

写真の資料「マッカーサー司令部指令書綴」  
は、淑徳大学アーカイブズでお預かりしている  
資料のうちの1点で、もともとは淑徳巣鴨中  
学高等学校に長く保管されてきた資料です。

この資料は、連合国軍最高司令官のダグラ  
ス・マッカーサー(Douglas MacArthur,  
1880～1964)の指令書をファイリングしたも  
のです。

全国の教育機関に通達された占領政策と  
戦後日本の教育を検証することが出来る資料  
であり、大変貴重な資料です。「重要」「巣鴨  
女子商業学校」と表紙に書かれ、1945年か  
ら数年間の書類が綴じられています。

淑徳巣鴨中学高等学校では、2020年3  
月に、創立100周年記念事業の一環として、  
学祖の座右の銘「感恩奉仕」からとった新棟  
「感恩館」が開設しました。

新棟3階の1室には、「アーカイブ室」が開  
設され、12月10日に開室いたしました。当該  
資料は、この展示室のメイン展示ケースに現  
在おさめられており、生徒たちの見学などに供  
されています。アーカイブ室には、本校の歴史  
をたどる資料を展示しており、巣鴨女子商業  
学校時代の卒業アルバムや記念品、刊行物が  
展示されています。

なお、展示を準備する側も収集につとめた  
大事な点として、とくに机や椅子、制服など  
のモノの学校資料があります。展示見学者の  
視覚に訴え、当時の記憶を呼び戻すことが容  
易に出来るからです。

※ 記事作成にあたり、淑徳巣鴨中学高等学校の関  
係者の皆様にご協力を賜りました。

## アーカイブズの日常活動

アーカイブズ事務室では、日常、資料整理を順次進めております。収蔵資料のうち、写真は被写体の情報が重要で、その情報を補完するために聞き取りも行っています。資料整理の専門の方にもアルバイトに入ってもらい、写真整理を急ピッチで進めています。

またアーカイブズの普及のため、ニュースなどで発信するほか、展示を行っています。学祖展示コーナー(4階)には、ミニ展示コーナーを設けました。

事務室で昨夏より学生アルバイト 2 名も活躍中です。



## 資料調査

アーカイブズ叢書『浄土宗関東十八檀林 大念寺日鑑』は最終巻となりました(2022年2月刊行予定)。その刊行準備が大詰めに入っています。

今年度は、大念寺(茨城県稲敷市)で、日鑑以外の古文書調査も実施しました。



## 活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・ボランティア

地域との連携を図り地元の方々と交流を深める目的で活動が始まりました。新型コロナウイルス

イルスの流行により対面での活動を中止していましたが、2021年11月(第170回)から対面での活動を再開しました(月2回)。江戸時代の資料の読解を進めていきます。



## 展示の動画のご案内

2021年度特別展「令和元年の台風」は11月30日に会期を終えましたが、会期中に見学できなかった方々のためにHPから動画を配信する予定にしております。



## 特別展見学の感想

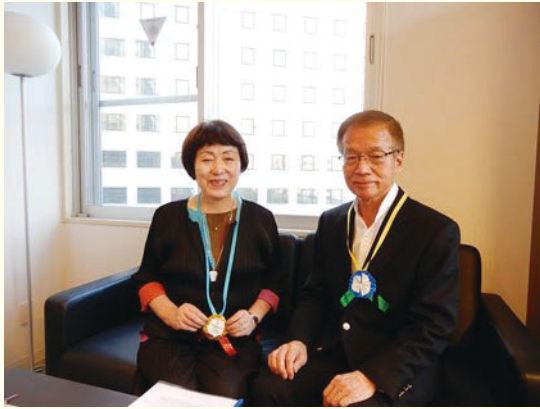
令和元年の台風、とくに9月9日明け方、千葉市付近に上陸した台風15号はわたしにとっても忘れることはできません。この台風で自分たちの生活がいかに脆弱か身を持って体験することができました。職場でも台風の翌日から安否確認を始めましたが、一職員の支援では限界があります。必要なのは、地域の力であり、人と人とが協力することだと感じたのを覚えています。

今回、展示で淑徳大学生が各地域で行ったボランティア活動を知り、改めて勇気をもらいました。淑徳大学生とともに、私自身も頑張っていきたいと思いました。(菊池 結)



## 連続インタビュー 第2回

菊地 <sup>まさゆき</sup> 政幸さん(6期生)  
同席 菊地 恵子さん(8期生)



第2回のインタビューは、菊地 政幸さん(6期生)です。同席いただいたのは、奥様の菊地 恵子さん(8期生)です。2021年11月2日、神田淡路町保育園「大きなうち」4階にてインタビューをさせていただきました。

【お世話になった先生】インタビューの最初にお名前が挙がった先生がおられました。児童福祉研究者である植山 つる先生(1907～1999)です。お二人にとって、先生は「大きな存在」だったと言います。

「福祉の仕事をするにも先生のご意見とか、思想とか、そういうのは常日頃お訪ねするたびに聞かせていただいていた」(恵子さん)。先生との出会いは、政幸さんにとっても淑徳大学に行ってよかったと思う点でした。

【人との出会い】政幸さんは在学中に交通事故に合いました。「事故があって、札幌から帰って東京で1か月か2か月入院してたんです。頭でしたからね。その時同室だったのがマラソンの円谷 幸吉さんだった」同室で1か月以上一緒だったそうです。「彼の人生も参考になっ

た」と言う政幸さんは、人の有難さを話されません。

同窓会の会長を長くおつとめで(1998.6～2012.7)、その話にもなりました。「団体の長をやっても、必ず誰かが一緒。目上の人からもいろいろ工夫を聞いたりとか、何か困った時は助けてくれる人がいた」同級生や後輩に助けられながらつとめたそうです。

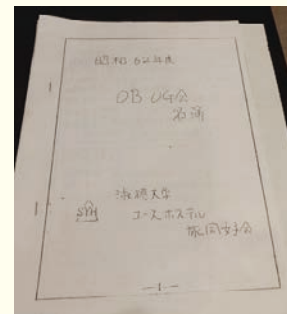
【体育祭での思い出】「マラソン大会みたいなものがあるんですよ。みんなで出るんですよ、で、俺ひとりだったんですよ。仲間が池田(則夫さん 6期生)っていうんだけど、彼が最後待っていてくれて。それが2度ありましたね。一緒に走って、戻ってくるんで参加した人たちが最後は拍手して待っていてくれた。有難かった。人の有難さっていうのはね、ありましたね」

病気後に、尾瀬の縦走を友人とやり遂げた時に「あ、俺まだやれるな」と思えたと言います。ここでも友人に助けられたことをとても大事にされています。

【サークル活動】政幸さんは、サークルを立ち上げています。

「ユースホステル旅同好会というサークルは、通い組の居場所がないので作ったんですよ。社会教育に興味を持ってる仲間がいたんで、それで指導員をするところを回った。旅行が好きだったものですから」

「実はサークルのメンバーとは、1年生の時、学校の冬のスキー教室があって、そこで知り合ったんです。スキーが好きだからっていつて仲良くなって」設立につながりました。政幸さんが前日に資料を探してくださり、



拝見させていただいています。そのうちのひとつが、サークルの後輩たちがつくった「昭和62年度OB・OG名簿」です(写真)。

【保育園経営、良信先生に学び】 お子様4人も保育園にかかわり、現在20以上の園を運営されています。地域などにあわせ「テーマ」を考えたり、地域の実情に合わせて運営されているなかで、政幸さんは、「僕は経営を参考にさせていただいてました。長谷川先生の自分の思いを事業に、地味ではあるんですけど、本当にしっかりとやられていることなんです。ある程度規模がないと、先行き経営は苦しくなるっていうのはわかった。先生もあるもので活用されて、大学に集中していくっていう思いがあられたみたいですよ。長谷川 良信先生にまだまだとても追いつかないですけどね」とおっしゃる政幸さん。世代として、「僕なんかは学長先生(匡俊先生)だからね」と、現理事長 長谷川 匡俊先生から影響を受けたことも話されました。

【子どもたち】 インタビュー当日は、文化の日の前日でした。子供たちから「文化勲章のプレゼント」をもらったお二人は、「この仕事の

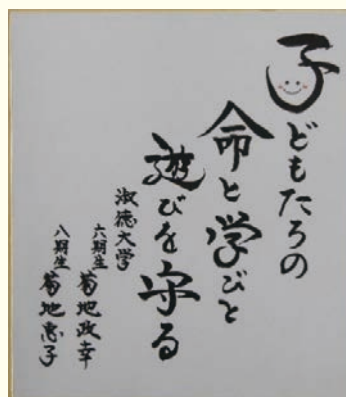


ありがたさ  
というか醍  
醐味はね、  
こうやって  
子供から  
のプレゼン

トですね。「先生ありがとう」ってそう言われるだけでうれしいですもんね。反対に「ありがとうって言える人になろうね」って(恵子さん)と言われたのを受けて、政幸さんは「まだつたない字でちゃんと。苗字まで書いてくれて」と子どもたち一人ひとりと向き合われていることが

伝わってきました。

【「今あるのは淑徳のおかげ」】「僕の人生も淑徳に行って変わったんですよね。そのまま日大の獣医学部(2年生まで在籍)に通ってたら、今頃は北海道にいたかもしれない。獣医やりたかったら」(政幸さん)大学が人生の分岐点になったことをおっしゃられました。恵子さんは卒業後に保育士の資格を国家試験で取りました。「(大学時代は)出会えなかったけど、その後の出会いが長い人生の中で有意義に私の中で生かされているので、とても感謝しています。淑徳でよかったなあって思います」政幸さんも「ベースは淑徳大学の人かな。あとは大学で本当に僕は楽しかったですよ。いろいろなことをやれて」と振り返りました。



インタビュー記念に色紙をお書きいただきました。政幸さんの座右の銘は、「一期一会」(習っていた茶道から影響を受けたそうです)。

～インタビューを終えて～

2時間に及ぶインタビューは、学生時代を振り返り、保育現場でのご苦勞、ご家族で協力されて進んでこられたことの中に、様々な方々に支えられ、今があるということをお伝えくださいました。人をぐっと惹きつける力を持っておられるお二人でした。御多忙の中でも、インタビュー中に一言も忙しいという言葉はありませんでした。今回のインタビューにあたり、ご協力いただき感謝申し上げます。

(きき手 大馬 聖子 協力 同窓会事務局)

## アーカイブズ力<sup>りよく</sup>をつける その2

清水 邦俊

前号の最後に触れましたが、資料がいつ歴史資料になるか、その境界線は何かについて、今回はお話ししたいと思います。

その前にアーカイブズ機関における資料を受け入れてから公開するまでの流れを大まかに説明します。流れとしては、

- ①資料の受け入れ
- ②資料を整理する
- ③公開のための検証
- ④利用に向けた準備

になります。この4つの工程の一つずつには、さらに細かい工程があります。基本的にはこの順番とおりに作業を行いますが、関係する工程もあるので、その場合は並行して行うこともあります。

今回のお話はこのうちの③になります。

では、いつ歴史資料になるのでしょうか。それは、アーカイブズ機関で資料を公開した瞬間から歴史資料(アーカイブズ資料)になります。公開というのは、目録作成作業が終了し所定の手続き等が完了した後、その目録が公開されて利用者が閲覧出来る状態になったことをいいます。もちろん、厳密には資料をアーカイブズ機関へ受け入れた時から歴史資料という区分になりますが、アーカイブズ機関での整理を終えて、公開になったものを本当の意味での歴史資料になったということだと私は思います。

文書の公開は、外務省外交史料館(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/index.html>)のように、1年のうちで定期的に行っている館もあれ

ば、年度の変わり目で行っている館もあります。要するに、昨日まで資料だったものが、翌日に公開されて歴史資料になるというのが、資料から歴史資料の境界線といえるでしょう。蛇足になりますが、外交史料館で新たな文書が公開になると、時々ニュースで取り上げられます。現在は、1980年代の文書が順次公開になっています。

\* \* \* \*

さて資料を公開するということには、2つの考え方があると思います。

1 つは、資料を一般(第三者)に公開することで、活動やプロジェクト等の事象を歴史にするという考え方です。資料は、ある活動やプロジェクトの下で作成されると、活動や活動の所属母体の関係者といった、内部関係者しか利用することはできません。それを一般の人にも利用出来るようにして、活動を客観的に検証したり、研究したりすることが可能になります。

前述の外交史料館の場合、作成から30年以上を経た資料を公開することによって、当時の日米関係等、その時はニュースに取り上げられなかったことや外交の裏事情等が、資料の公開によって公になるわけです。

したがって、資料を公開したことで当時のことが歴史になったといえるでしょう。公開になった資料を利用して、研究者やジャーナリスト等が当時の状況を検証し、それが様々な角度から検証され、積み重ねられていくことによって、少しずつ当時のことが歴史として築き上げられていくわけです。

\* \* \* \*

2 つ目は、世情を鑑みながら、ある事象が完全に歴史になったという判断に至ったら公開するという考え方です。この説明には、



1963年に起きたアメリカ合衆国の第35代大統領であるJ.F.ケネディー暗殺に関する機密文書の公開が好例でしょう。その前に、この件に関する文書の公開の是非についての経緯を簡単に説明しましょう。

1992年、アメリカ議会は、ケネディー暗殺に関する全記録を25年以内に全て公開すること等を定めた法律「JFK 暗殺記録収集法」を可決します。その全記録の公開期限が、2017年10月26日でした。この日までに約90%の文書が公開されていますが、残りの国家安全保障に関わる文書は非公開になっていました。翌日、トランプ大統領(当時)はアメリカ国立公文書館に対して残りの非公開文書の全面公開を指示します。FBIやCIAは「情報源や外国政府に関する機密が含まれている」として反対します。その後2018年4月、公開は2021年10月まで延期とする検討結果を発表しました。これを引き継いだバイデン大統領は、2021年10月22日に来年2022年12月15日まで未公開の文書の全面的な一般公開を差し控えるとなりました。

今年で事件発生から58年経ちますが、法律で公開年限が決まっているにも関わらず、国家安全保障に関わる文書は、公開延期の判断がなされ現在も非公開になっています。これは、いま公開すると、アメリカ国家や社会、あるいは国際的に大きな影響があるとアメリカ政府が判断したからだと思います。逆にいえば、このような影響が皆無な状況になったら公開する、要するにケネディー暗殺事件が世界的な歴史になったら公開するということでしょう。今年12月15日前後のバイデン大統領の判断にも注目してみましょう。

前述した外交史料館の文書も、1980年代の外交文書の全てが公開されているとは限り

ません。やはり、いま公開すると、日本の安全保障上、または外交上の観点から影響があると判断された文書は、公開していないと考えられます。

\* \* \* \*

ここで重要なことは、文書の公開を延期するということです。日本では、公開できない文書だから廃棄してしまうということをよく耳にしますが、廃棄したら当時のことは二度と検証できませんし、歴史にもなりません。延期によって公開できなくても、ずっと保存しておくことが重要だと思います。



文書を保存していれば、たとえば100年後、200年後、時期をみて公開することで歴史資料として検証することができます。アーカイブズ機関で文

書整理に関わる仕事をしている人たちをアーキビストといいます。このような判断にも関わることも彼らの仕事の一つです。

文書の公開について、このような考え方があることを頭の隅に置いておくと、文書公開に関するニュースは、これまでとはまた違った見え方がすると思います。(次号につづく)

認証アーキビスト。國學院大學卒。千葉県文書館・土佐山内家宝物資料館(現高知城歴史博物館)勤務。2018年からJICA日系社会シニア協力隊でサンパウロ人文科学研究所で日本人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。

## アーカイブズ事務室だより

事務室活動記録(2021年4月～2021年9月)

○資料寄贈：千葉キャンパス大学改革室、アドミッションオフィス、地域連携室、同窓会事務室・淑徳中学高等学校・松蘭 祐子氏・白井孝氏(PKO 法人ちば・生実歴史調査会)・三上 浩氏・長谷川 匡俊氏・川真田 喜代子氏・多田 元樹氏・大学ボランティアセンター・細谷 昭夫氏

○聞き取り協力者：川真田 和義氏・川真田 喜代子(卒業生インタビュー 5/22)、荒木 由紀子氏・菅谷 厚子氏・関 繁雄氏・武田 逸朗氏・長澤 正志氏・西塚 洋氏・長谷川 匡俊氏・廣澤 正晃氏

○資料閲覧：多田 元樹氏(6/7)・高梨 美代子氏(6/10)

○調査：大念寺(7/26,8/22,9/11・12)

○活動支援：大巖寺宝物殿展示・開館支援(4/24,5/4, 5/18, 5/22, 6/5, 7/3, 7/13, 8/3, 8/28, 9/28)、大学事務部へ写真データ提供(6/7)、大巖寺幼稚園にて撮影協力(6/21)、淑徳大学同窓会総会写真撮影協力(7/17)

○撮影：サークルの新生勧誘(4/2)の様子を撮影・チラシを収集、令和三年度入学式写真撮影・録音(4/5)、増上寺御忌(4/7)撮影、榎 英子先生(6/28)・鈴木 真廣先生(7/5)授業の写真撮影、オーエックスエンジニアリングで撮影(展示準備 4/8)

○学会：全国大学史資料協議会東日本部会幹事会(4/23)・2021年度日本アーカイブズ学会大会(4/24・25)・社会事業史学会大会(5/15・16)・全国大学史資料協議会東日本部会総会(5/27)・社会事業史学会(6/6 大会打合せ)

○展示：2021年度特別展「パラスポーツの活力ーその歴史と未来へ向けてー」(会期 5/10～9/20)

○刊行物：『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』23号(7/7) 以上  
(ご協力のお願ひ)

\* 地域福祉などの資料を寄贈される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。

\* コロナ流行に関するメール配信は、各キャンパスより、情報提供をいただいております。引き続き、ご協力をお願いいたします。

\* 各部門・部署の刊行物は将来大学の年史を編纂するときなどに役立ちます。こちらも日ごろから寄贈にご協力いただいております。

\* 廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へご相談ください。

〈編集後記〉

いつもアーカイブズの業務にご理解とご協力をいただいております皆様に、この場を借りお礼を申し上げます。

アーカイブズには、「アーカイブズ学」という学問があります。ほかの学問と比べてまだまだ若い学問です。ただし「アーカイブズ力」の記事から分かるように、私たちの日常にととても近いところにあるものでもあります。前号にも書きましたように、アーカイブズはその視点を活用する皆様が育てていく側面も持っています。つまり、アーカイブズは利用していただくことで、その価値を発揮しますので、遠慮なくご相談いただきたいと思います。

(大寫 聖子)

～淑徳大学アーカイブズ～

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町 200 1号館 3階

TEL 043(265)7526 <直通>

✉ アドレス archives@soc.shukutoku.ac.jp

